

重点取組分野	平成30年度		総括
	具体的取組	自己評価結果	
確かな学力	①授業のユニバーサルデザイン化を図り、「聴き方」「話し方」等、学習のルールについて共通した指導を行う。②資質・能力について研修・研究を通して学び、身に付けたい力を明確にした授業づくりに取り組む。③教科分担任制での授業を行い、教材研究の充実を図ることにより、基礎基本の定着を図る。	教科分担任制をとることで、教材研究の充実を図ることができ、児童にとって分かりやすい授業を追究し、実践することができた。思考力・表現力を高めることができる授業づくりのために、今後も研究を深めていく必要がある。	B
豊かな心	①たてわり活動を通して、異学年のつながりを築き、思いやりの心を育てる。②家庭や地域と連携しながら、あいさつを進んで行うようにし、あいさつの大切さを実感できるようにする。③いじめに対してチームで迅速に対応するとともに、YPプログラムを活用していじめの未然防止に努める。	定期的なたてわり活動やYPの活用により、よりよい他者との関わり方や集団づくりがなされ、いじめの未然防止にもつながった。あいさつ運動などで、あいさつの大切さを考えることができ、進んであいさつする姿が増えてきた。	B
健やかな体	①いきいきタイムを活用し、児童の実態に合わせた活動を行って体力向上を図る。②月1回すすく会議を開き、健やかな体づくりについて児童が自ら考え、全学級で取り組めるようにする。③栄養職員と連携し、バランスのよい食事やマナー、食の大切さについて指導する。	いきいきタイムでは、長なわ跳び・時間走に取り組むことで、運動をする習慣が身に付き、体力の向上が図られた。また、自分の目標をもって意欲的に取り組む児童も増えた。健康に対する意識を高める為に、すすく会議では、健やかな身体づくりに向けた取り組みができた。	A
児童生徒指導	①児童指導専任を中心に、児童指導部会、職員会議等で、児童の共通理解を図り、全職員で共有して指導に当たる。②職員研修の充実を図り、児童理解、児童指導・支援のあり方について学び、実践する。③教科分担任制で授業を行う中で、学年で共通した児童指導を行う。	教科分担任等で、多くの目で児童の実態把握に努めた。把握した児童の実態を、児童指導部会や職員会議で共有した。その上で、全職員で共通した指導を行うことができた。また、職員研修では、YPの分析・活用などを学び、児童理解・指導に役立てることができた。	B
地域連携	①総合的な学習の時間や生活科等を通して、神奈川宿、浦島伝説、大口商店街などを材とした学習を行い、地域理解を図るとともに、地域への愛着を深める。②教育活動に保護者や地域の方の参画を促進する。また、地域行事に子どもたちが参加することにより、地域とのつながりを大切に育てる。	各学年で、地域を材とした学習に取り組むことで、地域に対する理解が深まった。家庭の協力もあり、地域行事に多くの児童が参加している。地域の材の開発や行事への参加等で、地域と学校のつながりが広がり、地域と協働した教育活動が充実してきている。	B
特別支援	①個別支援学級と一般級との連携を図り、インクルーシブ教育の理念に基づいた児童の指導・支援の充実を図る。②国際教室や特別支援教室での「取り出し」指導を効果的に行い、配慮を要する児童の指導・支援を充実させる。③東部療育センターのコンサルテーションを活用した児童理解を基に一人ひとりに応じた指導を行う。	配慮の必要な児童に対し、実態に応じた支援を担当者同士で連携しながら進めることができた。特別支援教育についての研修や関係機関と連携しての実態把握、支援方法の検討などを行ったことで、より良い支援につなげることができた。	B
いじめへの対応	①学級担任だけでなく、学年やブロックなど、複数の教職員が授業にかかわり、児童一人ひとりを見とり、児童指導にあたる。②いじめの早期発見、迅速な対応をするため、担任と児童支援専任の連絡を密にし、教職員全体で情報共有に努める。③道徳の授業の充実を図り、自己肯定感や思いやりの心の育成を図る。	多くの目で児童を見取り、適切な指導を行うことができた。アンケートや児童面談、YPを通じていじめの早期発見、早期解決を行うことができた。また、道徳の授業を積み重ねていくことで、規範意識や思いやりの心などを育てることができた。	A
人材育成・組織運営	①メンターチームによる指導力向上に向けての主体的な研修を実施する。②校務分掌等で自分の役割を自覚し、関係職員と連携しながら協働して実践するとともに、教員としての資質向上を図る。③教員として学び続ける環境を構築する。	5年次までの教職員が、学級経営や授業づくりについて研修を行った。ミドルリーダーが研修講師を行うなど、キャリアステージに応じた実践が見られた。市・区で授業提案をしたり、市研究会へ参加したりと教職員の学び続ける姿勢が育っている。	B
ブロック内相互評価後の気づき	<p>・「一人ひとりにあった具体的な支援の共有」というテーマを設定し、個々の児童生徒に目を向けた支援のあり方について検討し、実践してきた。合同授業研究会後の振り返りでは、担任が児童一人ひとりの様子を把握し、しっかり支援していることやだれもが取り組めるユニバーサルデザインの視点での支援などを評価してもらった。</p> <p>・小中9年間を見通し、系統性を意識した指導のあり方については、今後さらに検討していく。</p>		
学校関係者評価	<p>・学校評価の結果を見ると、新学習指導要領で求められている力を意識した「確かな学力」に関わる取組が成果を上げていることがわかる。これからも自信をもって取組を進めてもらいたい。</p> <p>・UDの視点で誰もが分かりやすい授業を行い全体のレベルアップを図るという意図を、中学校にもつないでほしい。また、学んだことを活用する力を育てるという視点が、中学校、高校へとつながるようにしてほしい。</p> <p>・保護者との関係づくりに努め、より相談しやすい学校づくりをすすめることが大切である。</p>		
学校経営中期取組目標振り返り	<p>・資質・能力と関係づけた目指す子ども像の検討や、その育成を目指した取組が成果を上げていると考える。中学校ブロックで検討した9年間で育てる子ども像も意識し、さらに取組を推進していく。</p> <p>・たてわり活動をはじめとする取組が、思いやりの心を育むことやいじめの未然防止につながっていると考える。</p> <p>・目標達成のためには職員の資質向上が不可欠である。経験の浅い職員の育成や学校のチーム力の向上のために、ミドルリーダー層の自覚を高めていきたい。</p>		